

上海人大学生の言語評価

宮本大輔 (外国語学部)

1. はじめに

本稿は中国人の言語評価に関する研究の一部である。社会言語学的な立場から、上海人大学生が中国に存在する多くの方言をどう評価するのかということを論じている。本研究のキーワードである「言語意識」及び「言語評価」の社会言語学における位置づけについては宮本 (2008c・2009) をご参照いただきたい。

堀井 (1988) は人々が言語や方言、集団言語に対して持つ言語的評価感覚について次のように述べている。

「言語そのものから受ける感じには、言語の内在的特性とは全く別の条件が介入している。その言語を使用する民族に対する感情、言語使用者との接触状況、風習や社会への志向、文学作品に対する憧れとかが語感を喚起する。そうした外的条件に対して、言語そのものに内在する物理的性質、機能的性質も語感に対して依然として無視できない役割を演じている。」¹⁾

つまり言語イメージは、その言語が持つ音やリズムといった内的条件にのみ左右される訳ではなく、その他の外的条件も無視することはできないということになる。外的条件の要素の一つに、その言語の母集団が持つ経済的背景が挙げられる。一般的に言語評価はこの要素によって大きく左右されると思われるがちである。だが、実際にはそれ程単純なものではない。その言語の母集団が持つ経済的地位は言語評価を決定する要素の1つに過ぎず、その言語が有する文化的或いは歴史的な背景、更には方言の母語話者のアイデンティティ

といった様々な要素が幾重にも複雑に影響を及ぼし合っていると考えられる。

本稿の目的は次の通りである。(1)上海人大学生の普通話及び地方方言に対する評価及びイメージのステレオタイプを探る。(2)言語イメージの構築に影響を及ぼす要素にはどのような可能性があるかを探る。(3)因子分析を行うことによって、各評価語間に潜在する共通因子を探る。

2. 先行研究

言語評価研究は、インフォーマントに評価対象言語の音声を提供するものとそうでないものの2つに分かれる。

前者の例としては、高・蘇・周 (1998) をあげることができる。本論文では香港、北京及び広州の大学生を対象に、12組の評価項目を設定し、広東語、英語、普通話、広東訛りの普通話それぞれの話者に、同じ文章を朗読させるという調査方法を用いて、言語評価調査を実施した。具体的な評価項目は、「温かい—冷たい」、「学歴が高い—学歴が低い」、「信頼できる—信頼できない」、「開放的—閉鎖的」、「平等的—差別的」、「理想主義—現実主義」、「給料が高い—給料が安い」、「頭が良い—素直である」、「尊敬できる—尊敬できない」、「お金があれば株を買う—お金があれば貯金する」、「礼儀正しい—豪快である」、「裕福である—裕福ではない」である。その結果、以下のことが明らかになった。(1)香港のインフォーマントの普通話に対する評価は全体的に大陸のインフォーマントのものと類似しており、特に普通話を持つ社会的地位に関しては肯定的である。(2)香港のインフォーマントの英語に対する評価は大陸より

低く、広東訛りの普通話に対する評価は大陸より高い。(3)返還前の香港の大学生は、英語に対しては否定的な態度、普通話に対しては肯定的な態度、そして母方言である広東語に対しては全面的な忠誠心を持っている。

後者の例としては、井上(1978a・b, 1980a・b)をあげることができる。本論文では言語心理学のSD法(意味微分法)に基づいて、各方言と結びつく評価語を調べ、「方言イメージ」によって各方言を位置づけることを試みている。この研究では、言葉の評価によく用いられる17ペア34語を評価語として設定し、SD法に基づき評価を7段階にすることによって、インフォーマントの各方言(東京弁・東北弁・関西弁)に対する評価を細かく分析している。これと同じ方向性のものとして、佐藤・米田(1999)、沖(1986)、神鳥・高永(1988, 1990)、相澤(1990)、鈴木(1991)、宮本(2007, 2008a・b・c, 2009)をあげることができる。

先行研究を見ると、日本における言語評価研究の研究方法は、インフォーマントに評価対象言語の音声を提供しないものが主流であると考えられる。したがって、本稿でもこの方法を採用する。

3. 研究概要

本調査は、以下の地点において、実施した。

調査地点と場所：中華人民共和国上海市
調査実施期間：2006年9月5日～24日
(上海市)

調査対象：上海師範大学・華東師範大学：
男性20名、女性：141名

年齢構成：17～30歳

上記のインフォーマントは全て上海で生まれ育った者ばかりである。

調査対象は17歳から30歳の学部生及び大学院生であるため、本稿の調査結果はこの年齢及び学歴を反映しているものと考えられる。

調査には、選択式の調査票を配布・回収する留置法を用いた。具体的な調査票の内容は宮本(2008c)をご参照いただきたい。

選択式の部分には、(a)上品である、(b)親近感を覚える、(c)柔らかである、(d)豪快である、

(e)細やかである、(f)実用的である、(g)美しい、(h)カッコいい、(i)好きであるという9つの評価項目を設定し、それぞれの項目に①～⑤の選択肢を用意した。①を5点、②を4点、③を3点、④を2点、⑤を1点として集計している。したがって、実際の言語評価数値において、3点以上の数値を示した場合はプラス、3点未満の数値を示した場合はマイナスのイメージとなる。

また、全ての評価項目において3点未満の評価を下された方言に関しては、その方言が持つ評価構成の前半を上位イメージ、後半を下位イメージとした。

上海における調査対象言語は、中国語の標準変種である普通話、十大方言から晋語及び平話を除いた北方方言、呉語、徽語、贛語、湘語、閩語、粵語一表中ではそれぞれ北京語、上海語、安徽語、江西語、湖南語、福建語、広東語の7つを共通項目として設定した。そして、北方の人々が南方の局地方言についてどのような評価をするのかを調べることを目的に杭州語、蘇州語の2つ、その他の北方の局地方言として山東語、西南官話と呼ばれ独自の地位を確立しつつある四川語の2つを加えた。そして、調査地点周辺地域の方言として寧波語、紹興語、温州語、揚州語、客家語の5つを加えた。

選択式部分は、(a)～(i)まで設定した各評価項目において、インフォーマントに各方言に対する評価を行わせることによって、上海の大学生が各方言についてどのようなイメージのステレオタイプをもっているのか探ることを狙いとしている。

なお、分析にはSPSS for windows 11.0Jを使用し、因子分析²⁾を行った。本稿では、まず9項目について主因子法³⁾とバリマックス回転⁴⁾による因子分析を試みた。その後、普通話とそれぞれの方言イメージの違いを分析する際には、一元配置分散分析⁵⁾を行った。

4. 結果と考察

4.1 全体像

表1は(a)～(i)の各評価項目について、言語

の別を問わず因子分析（主因子法・バリマックス回転）を行った結果である。因子分析に際しては、因子負荷量の絶対値0.5以上を示した項目の内容を参考に各因子を決定した。その結果、2つの因子が抽出された。第1因子では「柔らかである」「細やかである」「親近感を覚える」「美しい」「上品である」という静的な感情を表す評価項目の因子負荷量が高いことから「静的因子」と命名した。第2因子では「好きである」「カッコいい」「豪快である」「実用的である」という動的な感情を表す評価項目の因子負荷量が高いことから「動的因子」と命名した。

表1 イメージ因子の因子パターン

| 項目名 | 因子名 | 1 因子 | 2 因子 | 共通性 |
|---------|------|-------|-------|------|
| 柔らかである | 静的因子 | .872 | | .760 |
| 細やかである | | .862 | | .747 |
| 親近感を覚える | | .665 | | .628 |
| 美しい | | .665 | | .720 |
| 上品である | | .632 | | .509 |
| 好きである | 動的因子 | .583 | .653 | .766 |
| カッコいい | | | .576 | .405 |
| 豪快である | | | .567 | .337 |
| 実用的である | | | .531 | .471 |
| 寄与率 | | 37.82 | 21.55 | |

4.2 各方言に対する評価

本節では、普通話をはじめとする18言語のイメージについて詳述する。具体的なデータは後に示すが、これらの方言を分析した結果見えてきた全体的な傾向を概観する。

普通話と北京語、上海語、広東語、杭州語、蘇州語、山東語のイメージははっきりとした形で現れている。普通話は「豪快である」と「カッコいい」における評価を除けば、平均的に高いイメージを持たれている。北京語と山東語は「豪快である」において高い数値を示しており、豪快な言語であるというイメージを持たれている。上海語は本稿のインフォーマントである上海人大学生の母語であるため、普通話と同程度の高い評価を得ている。また、杭州語及び蘇州語については、「柔らかである」「細やかである」といった第2因子に属する項目において高い数値を示している。

また、湖南語、福建語、四川語に対する評価数値は全体的に3付近に集中しており、上海におい

て、これらの方言ははっきりとしたイメージを持たれていないことが分かる。江西語と温州語、安徽語に対する評価はかなり低い。このことから、上海人大学生が江西語及び温州語、安徽語に対して負の評価態度を有していることをうかがい知ることができる。

4.2.1 普通話のイメージ

上海人大学生の普通話に対するステレオタイプ的な評価は、図1ようになる。

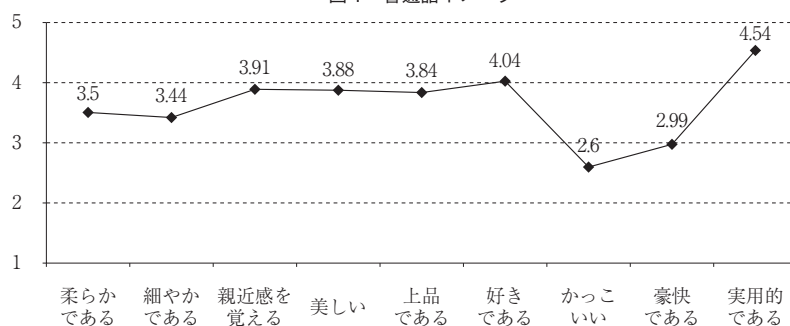
普通話は、中国において共通語としての役割を担っているため、その実用性が高く評価されている。そして、普通話を持つその規範性が評価され、上品であり、美しく、細やかな言語であるという位置づけがなされている。

上海人大学生普通話に対する高い評価には、国や市の行政が施行してきた多くの言語政策によってもたらされた実用性が強く影響しているのだろう。また、2003年9月13日から9月20日には、「第六届全国推广普通话宣传周（第六次全国普通话普及宣传ウィーク）」の一環として、楊浦区、浦東新区、徐匯区そして閘北区で大規模な普通話普及活動が実施され、上海テレビ局などによって特集も組まれ放送された。また、2007年9月にも“第十届全国推广普通话宣传周（第十次全国普通话普及宣传ウィーク）」を実施し、上海市民に対して大々的に普通話を普及する必要性についてうったえかけた。

また、宮本（2008a・2009）で述べたが、各種メディアが使用する普通話のレベルは、国の規定する基準に達していなければならない。この規定により、アナウンサーや俳優、女優等が規範性の強い普通話を話し始め、規範的威信を持つ普通話が美しいものだという意識が芽生え始め、「好きである」「親近感を覚える」といった心理的要素の影響を強く受ける評価項目においても高い評価を得たのだと考えられる。更に、「細やかである」と意味的に近似する「柔らかである」における評価も高くなっている。

その反面、「柔らかである」及び「細やかである」の反義語となる「豪快である」においては、2.99ptと低い評価を下されている。そして、普通

図1 普通話イメージ



話が非常に規範的な言語であるためか、若者の意識を反映しやすい評価項目「カッコいい」における評価数値は18の対象言語中17位(2.6pt)と低くなっている。

図1から、上海人大学生の普通話に対するイメージは、「非常に実用的で、美しくそして親近感を覚え、好ましく感じるが、豪快さやカッコよさは持たない」というものである。

4.2.2 北京語のイメージ

上海人大学生の北京語に対するステレオタイプの評価は、図2のようになる。また、表2は普通話及び北京語に対する評価の基礎データについて一元配置分散分析を行った結果とその有意確率を示したものである。

図2から、上海人大学生の北京語に対するイメージは、「豪快であり、実用的でもあり、親近感を覚えるが、細やかさや柔らかさは備えていない」というものであり、豪快な言語として認識されている点は山東語と共通している。また、北京語は中国において共通語としての役割を果たす普通話の基礎となっている北方方言の代表的下位方言であることから、実用的な言語として位置づけられたのだと考えられる。

宮本(2008a)において北京人大学生が上海語を非常に低く評価していたことから、上海人大学生の北京語に対する評価も非常に低くなると予測された。しかし、図2を見てみると、やはり、上海語に対する評価と比較すれば低いものとなっているが、実際にはそれ程悪い数値ではない。また、「豪快である」における評価が高く、「柔らか

である」及び「細やかである」における評価が低くなっており、多数の北方方言が有する特徴を的確に捉えていると言えるのではないだろうか。楊(2006)は上海人の北京人に対する評価について以下のように述べている。

「几乎绝大多数上海人对北京和北京人无可评价—由于缺乏实际的接触，具体的感受。(実際の接触や具体的な体験がないため、大多数の上海人は北京及び北京人に対して評価しようがない。)⁶⁾」

しかし、近年、北京と上海をつなぐ直通列車が開通したこともあって、北京人と接触する機会が増加したためか、上海人大学生の北京語に対する評価はかなりはっきりとしたものになったように思われる。

また、上海での調査に際し、調査協力者の1人から、「上海人の学生は普通話と北京語を同一視している」というご指摘をいただいた。だが、本調査結果から言えば、普通話と北京語のイメージの間にはかなりの開きが見られる。このことから、上海の大学生は普通話と北京語を別のものと見なしていると推論することができるだろう。

4.2.3 上海語のイメージ

上海人大学生の上海語に対するステレオタイプの評価は、図3のようになる。また、表3は普通話及び上海語に対する評価の基礎データについて一元配置分散分析を行った結果とその有意確率を示したものである。

インフォーマントにとっては母方言であるため、当然のことかもしれないが、全体的に高い評

図2 普通話と北京語の比較

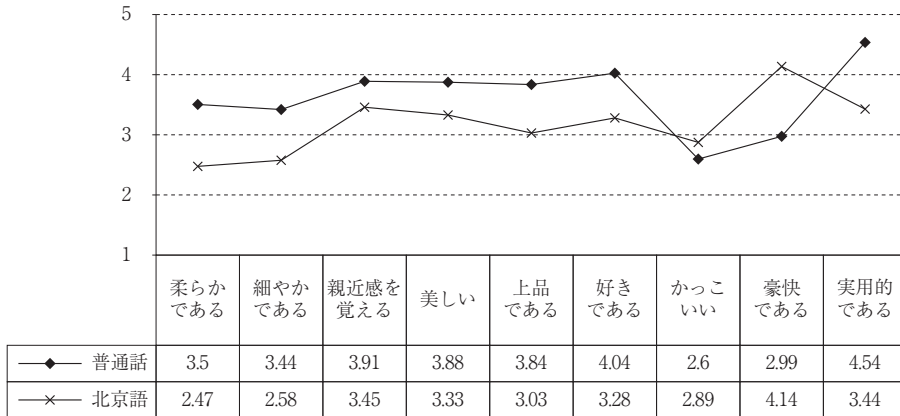


表2 普通話と北京語の比較（一元配置分散分析）

| | 柔らか である | 細やか である | 親近感を 覚える | 美しい | 上品 である | 好き である | かっこ いい | 豪快 である | 実用的 である |
|-----|------------|------------|-------------|-----------|-----------|-----------|-----------|------------|------------|
| F 値 | 96.36 *** | 75.29 *** | 20.05 *** | 27.25 *** | 80.68 *** | 55.26 *** | 7.21 * | 159.77 *** | 163.32 *** |

*p<.05, **p<.01, ***p.001

価数値を示している。特に、「親近感を覚える」「好きである」といった心理的要因が色濃く反映する評価項目で高く評価されている。更に、「柔らかである」「細やかである」においてプラスの評価を受け、「かっこいい」「豪快である」においてマイナスの評価を受けるといった他の呉語に属する方言に多く見られる特徴も見られる。このことから、上海語が持つ呉語としての特徴に関して、ある程度の認識或いは理解を持っており、自らの母方言とはいえ盲目的に評価しているわけではないことがうかがわれる。

また、表3を見れば分かるように、「美しい」「好きである」「豪快である」においては、有意差が見られず、この3項目については普通話と上海語に共通するイメージであることが分かる。

上海語に対する高い評価は、中国沿海地域を代表する大都市で、高い経済的地位を有する上海に対する上海人の強いアイデンティティーの現れであるともいえるのではないだろうか。

普通話普及が急速に展開する中、「中国語言生活状況報告」課題組（2006）によれば、2005年1月、上海市人民代表大会に出席した代表の一人が記者のインタビューに対して、「上海語」を保護する措置を執るべきだと述べたという。この代表

は、多くの外来人口が上海で生活を始めた結果、上海語を用いる場面が減少し、上海語が忘れ去られてしまうのではないかと危惧していたようである。

しかし、本調査結果を見る限り、上海においてそういった徴候は見られない。宮本（2008d）を見れば分かる通り、普通話と上海語は共存していく上で、フォーマルとインフォーマルという場面による棲み分けをしている。確かに、インフォーマルにとって緊張感が高まるフォーマルな場面においては、普通話の勢力が強く、圧倒的優位な立場にあり、上海語は普通話によって淘汰されつつある。しかし、緊張感が低くなるインフォーマルな場面においては、上海語の力は依然として強く、普通話を上回っている。

4.2.4 江西語のイメージ

上海人大学生の江西語に対するステレオタイプ的な評価は、図4のようになる。また、表4は普通話及び江西語に対する評価の基礎データについて一元配置分散分析を行った結果とその有意確率を示したものである。

江西語の母集団である江西省の経済状態は調査対象として設定した方言の中でもかなり低い。ま

図3 普通話と上海語の比較

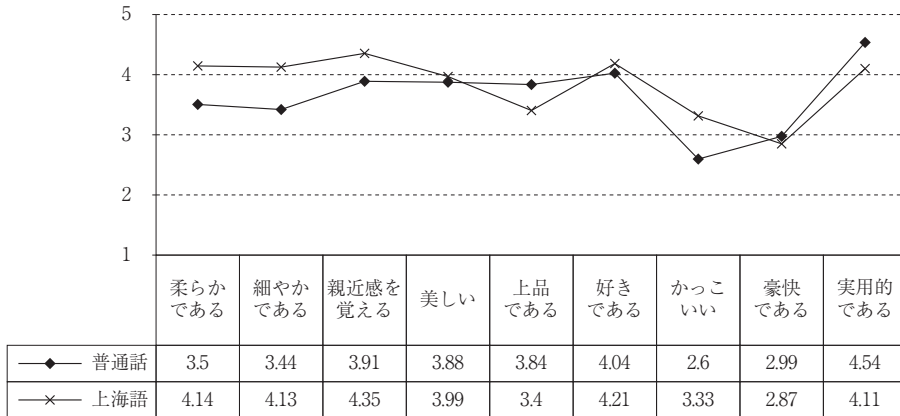


表3 普通話と上海語の比較（一元配置分散分析）

| | 柔らかである | 細やかである | 親近感を覚える | 美しい | 上品である | 好きである | かつこいい | 豪快である | 実用的である |
|-----|-----------|-----------|-----------|------|-----------|-------|-----------|-------|-----------|
| F 値 | 19.55 *** | 52.31 *** | 19.86 *** | 1.22 | 24.16 *** | 3.12 | 44.39 *** | 1.51 | 25.25 *** |

*p<.05, **p<.01, ***p.001

た、巖（2005）によれば、上海市の流動人口の戸籍登録地別構成を見ると、江西省は5位となっており、更に、江西省の出稼ぎ労働者は市の辺境部に当たる徐匯区の居住が目立ち、市の中心部から離れたところで働く傾向にあるという。江西語に対する低い評価は、この経済力の低さが江西省の持つ文化的イメージを上回った結果なのではないだろうか。

また、表4を見れば分かるように、「かつこいい」「豪快である」においては、有意差が見られず、この2項目については普通話と江西語に共通するイメージであることが分かる。

全評価項目においてマイナスの評価をされているが、図4から読み取れる上海人大学生の江西語に対するイメージは、「わずかに豪快で親近感を覚えるが、美しさやかつこよさや好ましさはない」というものであり、安徽語に対するものと些か近い。

安徽語と比較すると、その上位イメージで共通するのは、「豪快である」「親近感を覚える」という2項目であり、下位イメージで共通するのは「美しい」「好きある」「かつこいい」という3項目である。しかし、「柔らかである」「上品である」という2項目について、江西語は上位イメー

ジとなっているが、安徽語では下位イメージとなっている。また、「細やかである」「実用的である」という2項目について、江西語は上位イメージとなっているが、安徽語では下位イメージとなっており、これら4項目については両者間の評価が異なっている。

ただし全体的なイメージの波形に大きな変化が見られない（最大値と最小値の差は0.5ptである）ことから、上海人大学生の江西語に対する認識は非常に薄いものである可能性も高い。

4.2.5 湖南語のイメージ

上海人大学生の湖南語に対するステレオタイプの評価は、図5のようになる。また、表5は普通話及び湖南語に対する評価の基礎データについて一元配置分散分析を行った結果とその有意確率を示したものである。

湖南語の母集団である湖南省が持つその歴史的背景から、「豪快である」における評価が高くなるものと推測していた。その推測の通り、「豪快である」における評価はプラスの数値を示している。この結果は、宮本（2008a・2009）で示した北方における湖南語のイメージとは正反対のものである。

図4 普通話と江西語の比較

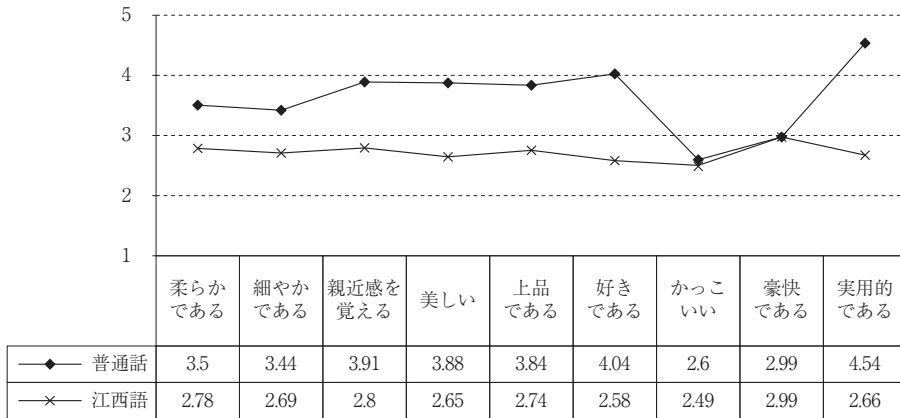


表4 普通話と江西語の比較（一元配置分散分析）

| | 柔らか である | 細やか である | 親近感を 覚える | 美しい | 上品 である | 好き である | かっこ いい | 豪快 である | 実用的 である |
|-----|------------|------------|-------------|------------|------------|------------|-----------|-----------|------------|
| F 値 | 55.51 *** | 69.59 *** | 141.19 *** | 198.97 *** | 168.47 *** | 275.79 *** | 1.35 | .005 | 506.00 *** |

*p<.05, **p<.01, ***p.001

図5 普通話と湖南語の比較

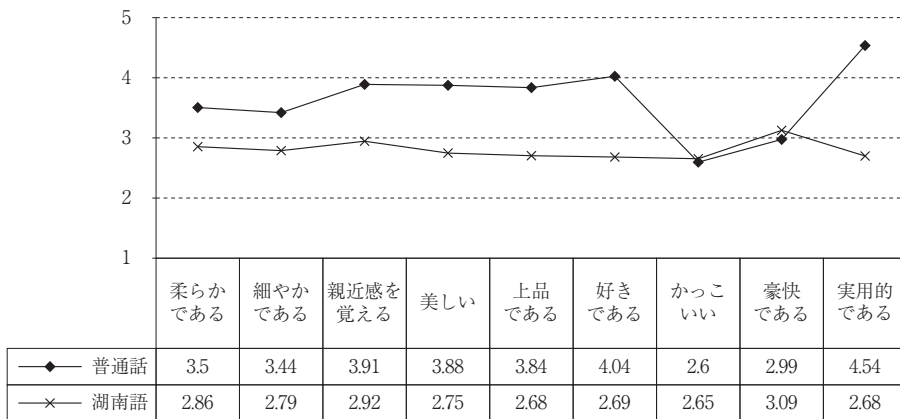


表5 普通話と湖南語の比較（一元配置分散分析）

| | 柔らか である | 細やか である | 親近感を 覚える | 美しい | 上品 である | 好き である | かっこ いい | 豪快 である | 実用的 である |
|-----|------------|------------|-------------|------------|------------|------------|-----------|-----------|------------|
| F 値 | 39.02 *** | 43.89 *** | 93.62 *** | 145.40 *** | 178.40 *** | 221.75 *** | .225 | .889 | 510.40 *** |

*p<.05, **p<.01, ***p.001

また、表5を見れば分かるように、「かっこいい」「豪快である」においては、有意差が見られず、この2項目については普通話と湖南語に共通するイメージであることが分かる。

図5から、上海人大学生の湖南語に対するイメージは、「やや豪快に感じるが、実用性やかっこよさは感じられない」となっている。ただし、

全体的なイメージの波形に大きな変化が見られない（最大値と最小値の差は0.34ptである）ことから、上海人大学生の湖南語に対する認識は非常に薄いものである可能性もある。

4.2.6 福建語のイメージ

上海人大学生の福建語に対するステレオタイプ

図6 普通話と福建語の比較

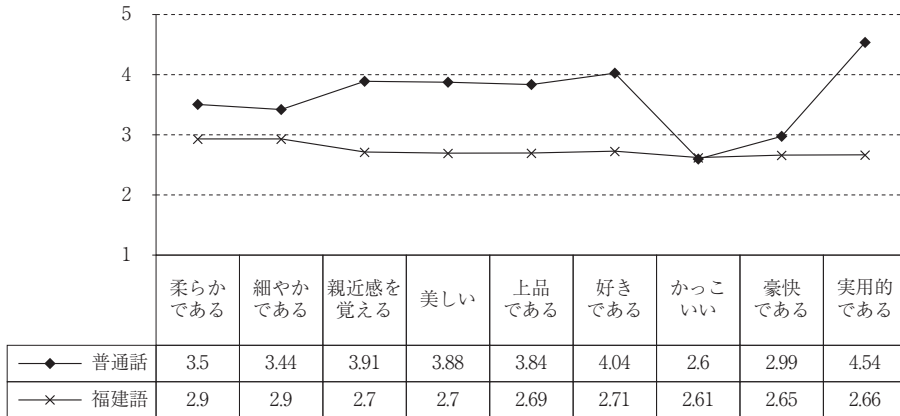


表6 普通話と福建語の比較（一元配置分散分析）

| | 柔らかかである | 細やかである | 親近感を覚える | 美しい | 上品である | 好きである | かっこいい | 豪快である | 実用的である |
|-----|-----------|-----------|------------|------------|------------|------------|-------|-----------|------------|
| F 値 | 33.58 *** | 31.66 *** | 173.55 *** | 156.77 *** | 183.57 *** | 214.67 *** | .008 | 14.13 *** | 515.48 *** |

*p<.05, **p<.01, ***p.001

的な評価は、図6のようになる。また、表6は普通話及び福建語に対する評価の基礎データについて一元配置分散分析を行った結果とその有意確率を示したものである。

全評価項目においてマイナスの評価をされているが、図6から読み取れる上海人大学生の福建語に対するイメージは、「わずかに柔らかさや細やかさを感じるが、豪快さやかっこよさは感じない」というものであり、その評価語の構成は、呉語に属する方言に対するものと近いものがあるように思われる。

また、表6を見れば分かるように、「かっこいい」においては、有意差が見られず、この項目については普通話と福建語に共通するイメージであることが分かる。

ただし全体的なイメージの波形に大きな変化が見られないこと（最大値と最小値の差は0.29ptである）から、上海人大学生の福建語に対する認識は非常に薄いものである可能性も高い。

4.2.7 客家語のイメージ

上海人大学生の客家語に対するステレオタイプの評価は、図7のようになる。また、表7は普通話及び客家語に対する評価の基礎データについて一元配置分散分析を行った結果とその有意確率を示したものである。

て一元配置分散分析を行った結果とその有意確率を示したものである。

また、表7を見れば分かるように、「かっこいい」においては、有意差が見られず、この項目については普通話と客家語に共通するイメージであることが分かる。

全評価項目においてマイナスの評価をされているが、図7から読み取れる上海人大学生の客家語に対するイメージは、「わずかに柔らかさや細やかさを感じるが、かっこよさや実用性は感じない」というものであり、その評価語の構成は、呉語に属する方言に対するものと近いものがあるように思われる。

ただし全体的なイメージの波形に大きな変化が見られない（最大値と最小値の差は0.29ptである）ことから、上海人大学生の客家語に対する認識は非常に薄いものである可能性も高い。

4.2.8 広東語のイメージ

上海人大学生の広東語に対するステレオタイプの評価は、図8のようになる。また、表8は普通話及び広東語に対する評価の基礎データについて一元配置分散分析を行った結果とその有意確率を示したものである。

図7 客家語に対する評価（上海）

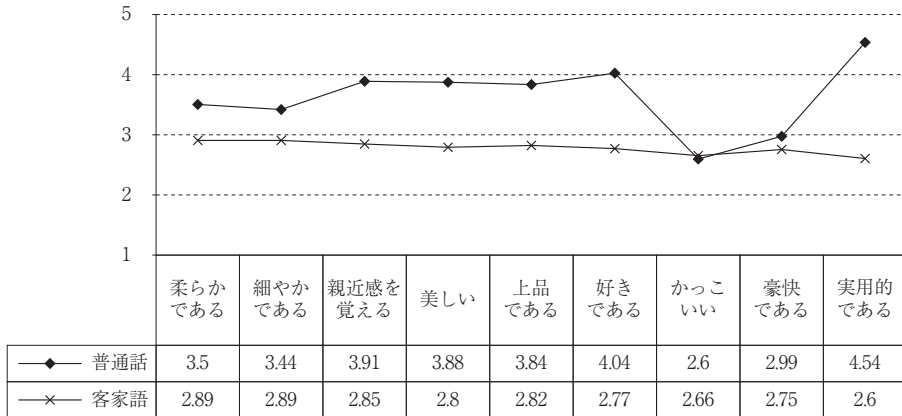


表7 普通話と客家語の比較（一元配置分散分析）

| | 柔らか である | 細やか である | 親近感を 覚える | 美しい | 上品 である | 好き である | かっこ いい | 豪快 である | 実用的 である |
|-----|------------|------------|-------------|------------|------------|------------|-----------|-----------|------------|
| F 値 | 38.47 *** | 33.09 *** | 123.31 *** | 137.01 *** | 143.60 *** | 198.41 *** | .359 | 7.17 ** | 520.15 *** |

*p<.05, **p<.01, ***p.001

広東語は上海語、山東語と共に、本調査で設定した調査対象言語のうち、「かっこいい」においてプラスの評価数値を示す言語の1つである。また、表8を見れば分かるように、「豪快である」においては、有意差が見られず、この項目については普通話と広東語に共通するイメージであることが分かる。

于（2004）によれば、様々な理由から中国の若者は80年代以降、広東語を好む傾向にある。例えば、広東省と同じく広東語を用い、経済特区として急速に発展を続けることから、人々から羨望の的となっている香港の都市イメージも広東語に対する評価に強い影響を及ぼす要因の1つだろう。このことから、広東語に対するイメージは、外的要因によって構築された非言語的威信に支えられていると言えるのではないだろうか。

図8から、上海人大学生の広東語に対するイメージは、「美しくしさとかっこよさを備えており好ましいが、柔らかさや上品さは感じない」というものである。

4.2.9 天津語のイメージ

上海人大学生の天津語に対するステレオタイプの評価は、図9のようになる。また、表9は普

通話及び天津語に対する評価の基礎データについて一元配置分散分析を行った結果とその有意確率を示したものである。

上海人大学生の天津語に対するイメージは、「豪快で、やや親近感を覚えるが、かっこよさや柔らかさは感じない」というもので、山東語に対するものと近い。

山東語と比較すると、そのイメージは「豪快である」という項目においてプラスの数値を示し、「細やかである」「柔らかである」「上品である」「親近感を覚える」「好きである」「美しい」という6項目においてマイナスの数値を示しているという点では共通している。だが、「実用的である」「かっこいい」の2項目について両者間の評価が異なっている。

4.2.10 杭州語のイメージ

上海人大学生の杭州語に対するステレオタイプの評価は、図10のようになる。また、表10は普通話及び杭州語に対する評価の基礎データについて一元配置分散分析を行った結果とその有意確率を示したものである。

「上品である」「細やかである」「美しい」における高い評価には、南宋時代の都であり、詩人や

図8 普通話と広東語の比較

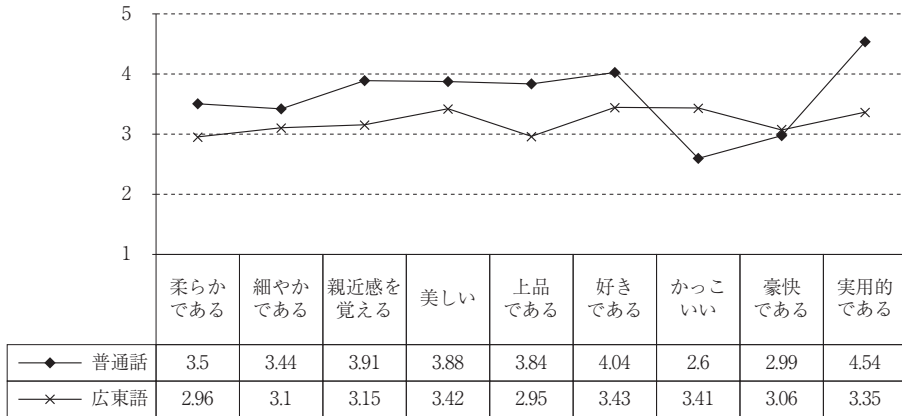


表8 普通話と広東語の比較（一元配置分散分析）

| | 柔らか かである | 細やか かである | 親近感を 覚える | 美しい | 上品 である | 好き である | かっこ いい | 豪快 である | 実用的 である |
|-----|-------------|-------------|-------------|-----------|-----------|-----------|-----------|-----------|------------|
| F 値 | 24.83 *** | 11.09 ** | 50.72 *** | 18.31 *** | 85.83 *** | 36.14 *** | 54.67 *** | .40 | 164.23 *** |

*p<.05, **p<.01, ***p.001

図9 普通話と天津語の比較

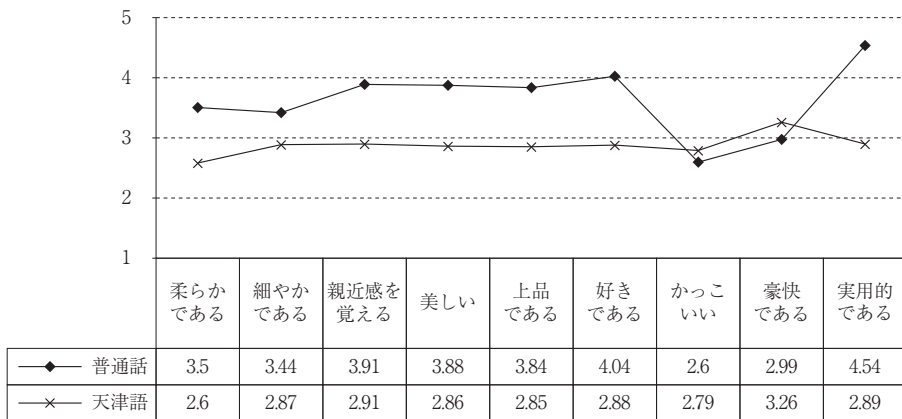


表9 普通話と天津語の比較（一元配置分散分析）

| | 柔らか かである | 細やか かである | 親近感を 覚える | 美しい | 上品 である | 好き である | かっこ いい | 豪快 である | 実用的 である |
|-----|-------------|-------------|-------------|------------|------------|------------|-----------|-----------|------------|
| F 値 | 93.94 *** | 36.55 ** | 117.63 *** | 132.27 *** | 131.44 *** | 178.93 *** | 4.02 * | 7.61 ** | 393.80 *** |

*p<.05, **p<.01, ***p.001

文学家といった文化人の交流が非常に盛んであったという文化的及び歴史的威信、「親近感を覚える」「柔らかかである」「好きである」における高い評価には、半官話とは称されながらも、上海人の母方言である上海語と同様に呉語に属し、地理的にも上海から非常に近いという心理的要素が強い影響を及ぼしているものと考えられる。

また、「柔らかかである」「細やかである」「親近感を覚える」においてプラスの評価を受け、「かっこいい」「豪快である」においてマイナスの評価を受けるといった他の呉語にも見られる特徴を兼ね備えている。

また、表10を見れば分かるように、「かっこいい」においては、有意差が見られず、この項目に

図 10 普通話と杭州語の比較

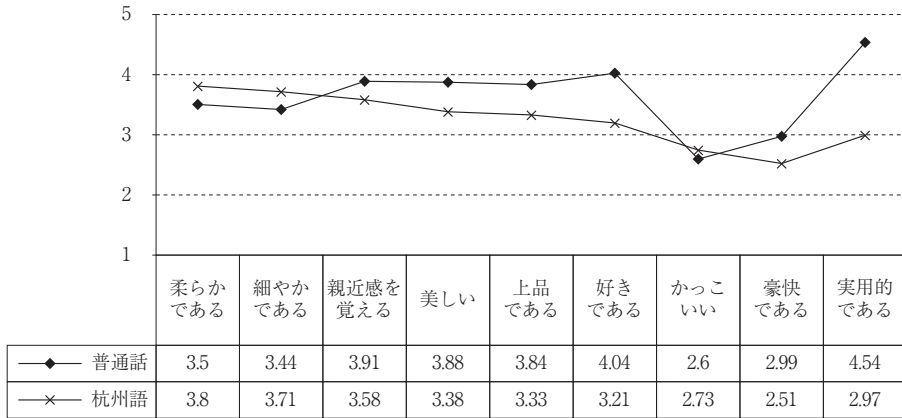


表 10 普通話と杭州語の比較（一元配置分散分析）

| | 柔らかかである | 細やかである | 親近感を覚える | 美しい | 上品である | 好きである | かっこいい | 豪快である | 実用的である |
|-----|----------|---------|-----------|-----------|-----------|-----------|-------|-----------|------------|
| F 値 | 9.99 *** | 7.78 ** | 13.13 *** | 28.87 *** | 35.02 *** | 91.93 *** | 1.85 | 26.39 *** | 378.03 *** |

*p<.05, **p<.01, ***p.001

については普通話と杭州語に共通するイメージであることが分かる。

4.2.11 寧波語のイメージ

上海人大学生の寧波語に対するステレオタイプの評価は、図 11 のようになる。また、表 11 は普通話及び寧波語に対する評価の基礎データについて一元配置分散分析を行った結果とその有意確率を示したものである。

寧波語は蘇南、杭州、嘉興、湖州、紹興地域と共に、平原に位置する都市において母方言として話されている。

そのため「柔らかである」「細やかである」「親近感を覚える」において高い評価を受け、「かっこいい」「豪快である」において低い評価を受けるといった他の呉語にも見られる特徴を持っている。

また、表 11 を見れば分かるように、「かっこいい」においては、有意差が見られず、この項目については普通話と寧波語に共通するイメージであることが分かる。

4.2.12 温州語のイメージ

上海人大学生の温州語に対するステレオタイプ

的な評価は、図 12 のようになる。また、表 12 は普通話及び温州語に対する評価の基礎データについて一元配置分散分析を行った結果とその有意確率を示したものである。

温州語は中国の人々の間で非常に理解しにくい⁷⁾とされており、また、温州語は金華、衢州、嚴州、台州と共に、山岳・丘陵地帯に位置しており、他の地域との交流が盛んではなかった。こういった要素が温州語に対する低い評価に繋がった可能性がある。

全評価項目においてマイナスの評価をされているが、図 12 から読み取れる上海人大学生の温州語に対するイメージは、「わずかに柔らかく、親近感を覚えるが、美しさや実用性は感じない」というもので、評価語の構成から言えば、北呉語に属する方言に対するものと近い。

また、表 12 を見れば分かるように、「かっこいい」においては、有意差が見られず、この項目については普通話と温州語に共通するイメージであることが分かる。

但し全体的なイメージの波形に大きな変化が見られない（最大値と最小値の差は 0.27pt である）ことから、上海人大学生の江西語に対する認識は非常に薄いものである可能性も高い。

図 11 普通話と寧波語の比較

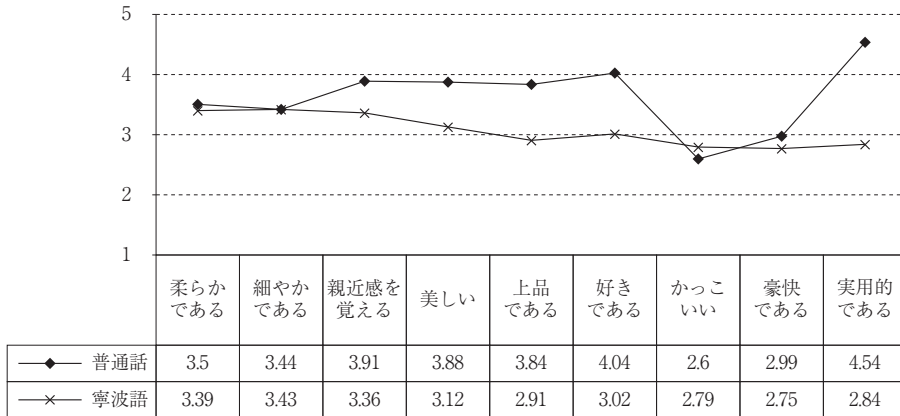


表 11 普通話と寧波語の比較（一元配置分散分析）

| | 柔らか である | 細やか である | 親近感を 覚える | 美しい | 上品 である | 好き である | かっこ いい | 豪快 である | 実用的 である |
|-----|------------|------------|-------------|-----------|------------|------------|-----------|-----------|------------|
| F 値 | 1.10 | .020 | 29.96 *** | 64.80 *** | 113.21 *** | 124.78 *** | 3.67 | 6.84 ** | 423.95 *** |

*p<.05, **p<.01, ***p.001

図 12 普通話と温州語の比較

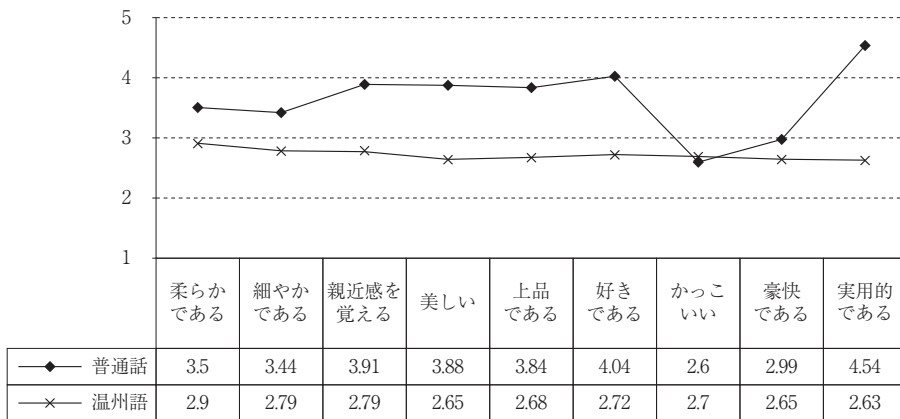


表 12 普通話と温州語の比較（一元配置分散分析）

| | 柔らか である | 細やか である | 親近感を 覚える | 美しい | 上品 である | 好き である | かっこ いい | 豪快 である | 実用的 である |
|-----|------------|------------|-------------|------------|------------|------------|-----------|-----------|------------|
| F 値 | 33.88 *** | 46.100 *** | 144.48 *** | 173.51 *** | 176.44 *** | 220.15 *** | 1.01 | 13.90 *** | 538.58 *** |

*p<.05, **p<.01, ***p.001

4.2.13 紹興語のイメージ

上海人大学生の紹興語に対するステレオタイプの評価は、図 13 のようになる。また、表 13 は普通話及び紹興語に対する評価の基礎データについて一元配置分散分析を行った結果とその有意確率を示したものである。

上述したように蘇南、杭州、嘉興、湖州、寧波

地域と共に、平原に位置する都市において母方言として話されている紹興語は、他の北呉語と同様に、上海人大学生から「親近感を覚え、柔らかさや細やかさを感じるが、豪快さやかっこよさは感じない」という評価を下されている。

また、表 13 を見れば分かるように、「細やかである」「かっこいい」「豪快である」においては、

図 13 普通話と紹興語の比較

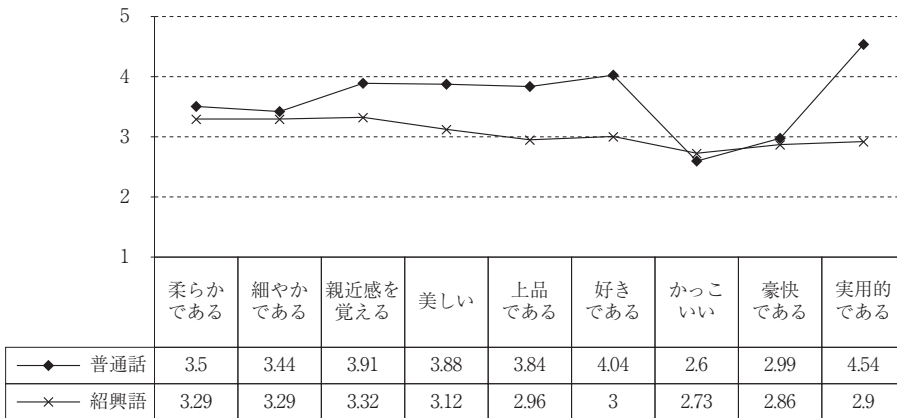


表 13 普通話と紹興語の比較（一元配置分散分析）

| | 柔らか かである | 細やか かである | 親近感 を覚える | 美しい | 上品 である | 好き である | かっこ いい | 豪快 である | 実用的 である |
|-----|-------------|-------------|-------------|-----------|------------|------------|-----------|-----------|------------|
| F 値 | 5.02 * | 2.53 | 37.32 *** | 69.33 *** | 112.42 *** | 138.52 *** | 1.82 | 2.10 | 408.99 *** |

*p<.05. **p<.01. ***p.001

有意差が見られず、この3項目については普通話と紹興語に共通するイメージであることが分かる。

4. 2. 14 揚州語のイメージ

上海人大学生の揚州語に対するステレオタイプの評価は、図 14 のようになる。揚州語は江淮官話に属し、その代表的な方言であるとされている。また、表 14 は普通話及び揚州語に対する評価の基礎データについて一元配置分散分析を行った結果とその有意確率を示したものである。

揚州は都が置かれたことこそないが、北は淮水、南は長江に接し、両川を結ぶ京杭運河が街中を通っており、交通要所であった。そのため、唐・宋代には北方へ通じる重要な軍事拠点でもあり、経済的にも発展した“淮左名都”、“富甲天下”と称される非常に大きな都市であった。そのため、上海人大学生による揚州語に対する評価も高くなるだろうと予測していたのだが、その予測に反して、上海人大学生が持つ揚州語のイメージは、「細やかで、柔らかく、親近感を覚えるが、豪快さとかっこよさは感じない」というもので、呉語でないにもかかわらず、周囲に存在する呉語に属する方言に対するものと大差なかった。

また、表 14 を見れば分かるように、「細やかである」「かっこいい」においては、有意差が見られず、この2項目については普通話と揚州語に共通するイメージであることが分かる。

4. 2. 15 蘇州語のイメージ

上海人大学生の蘇州語に対するステレオタイプの評価は、図 15 のようになる。また、表 15 は普通話及び蘇州語に対する評価の基礎データについて一元配置分散分析を行った結果とその有意確率を示したものである。

「柔らかである」「細やかである」における評価は特に高い。「上品である」「細やかである」「美しい」における高い評価には、文化人の交流が非常に盛んであったという文化的要素、「親近感を覚える」「柔らかである」「好きである」における高い評価には、上海人の母方言である上海語と同様に呉語に属し、地理的にも上海から非常に近いという心理的要素が強い影響を及ぼしているものと考えられる。

また、「柔らかである」「細やかである」「親近感を覚える」において高い評価を受け、「かっこいい」「豪快である」において低い評価を受けるという他の呉語にも見られる特徴を持っている。

図 14 普通話と揚州語の比較

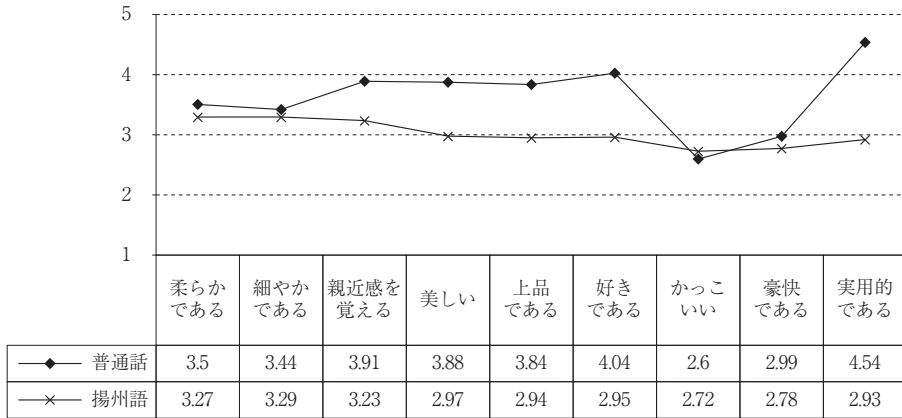


表 14 普通話と揚州語の比較（一元配置分散分析）

| | 柔らかである | 細やかである | 親近感を覚える | 美しい | 上品である | 好きである | かわいい | 豪快である | 実用的である |
|-----|--------|--------|-----------|-----------|------------|-----------|------|--------|------------|
| F 値 | 5.11 * | 2.14 | 46.26 *** | 94.69 *** | 103.89 *** | 141.5 *** | 1.50 | 4.67 * | 360.95 *** |

*p<.05, **p<.01, ***p.001

図 15 普通話と蘇州語の比較

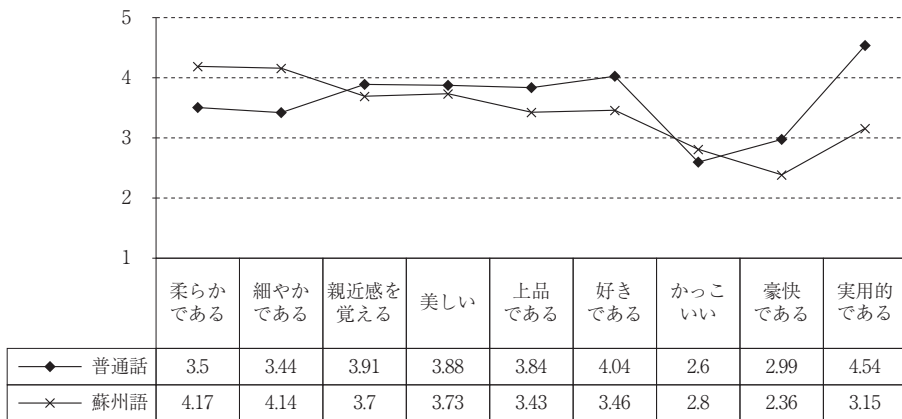


表 15 普通話と蘇州語の比較（一元配置分散分析）

| | 柔らかである | 細やかである | 親近感を覚える | 美しい | 上品である | 好きである | かわいい | 豪快である | 実用的である |
|-----|-----------|-----------|---------|------|-----------|-----------|------|-----------|------------|
| F 値 | 50.41 *** | 55.69 *** | 4.9 * | 2.41 | 21.39 *** | 40.92 *** | 3.65 | 37.40 *** | 289.99 *** |

*p<.05, **p<.01, ***p.001

また、表 15 を見れば分かるように、「美しい」「かわいい」においては、有意差が見られず、この 2 項目については普通話と蘇州語に共通するイメージであることが分かる。

4.2.16 山東語のイメージ

上海人大学生の山東語に対するステレオタイプ

的な評価は、図 16 のようになる。また、表 16 は普通話及び山東語に対する評価の基礎データについて一元配置分散分析を行った結果とその有意確率を示したものである。

上海人大学生の山東語に対するイメージは、「豪快で、ややかっこよく感じるが、上品ではなく、柔らかく感じない」というものであり、蘇州

図 16 普通話と山東語の比較

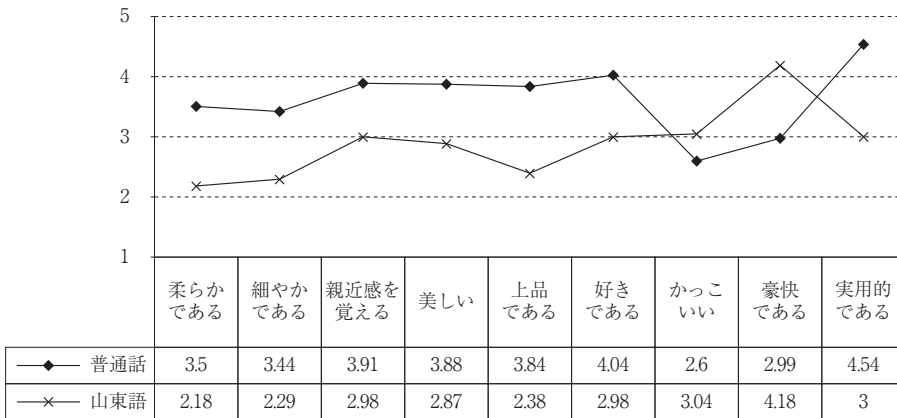


表 16 普通話と山東語の比較（一元配置分散分析）

| | 柔らか かである | 細やか かである | 親近感 を覚える | 美しい | 上品 である | 好き である | かっこ いい | 豪快 である | 実用的 である |
|-----|-------------|-------------|-------------|------------|------------|-----------|-----------|------------|------------|
| F 値 | 161.54 *** | 134.40 *** | 73.99 *** | 104.18 *** | 291.21 *** | 97.52 *** | 15.53 *** | 146.83 *** | 302.76 *** |

*p<.05. **p<.01. ***p.001

語や杭州語といった呉語に属する方言に対するものとは正反対のイメージを持つと言える。

北京語と比較すると、そのイメージは「豪快である」「実用的である」という2項目においてプラスの数値を示し、「柔らかである」「細やかである」という2項目においてマイナスの数値を示しているという点では共通している。しかし、「実用的である」「美しい」「好きである」「上品である」という4項目において、北京語がプラスに評価しているのに対して、山東語はマイナスに評価している。また、「かっこいい」という項目において、北京語がマイナスに評価しているのに対し、山東語はプラスに評価しており、これら5項目については、両者間の評価が異なっている。

4.2.17 安徽語のイメージ

上海人大学生の安徽語に対するステレオタイプ的な評価は、図 17 のようになる。また、表 17 は普通話及び安徽語に対する評価の基礎データについて一元配置分散分析を行った結果とその有意確率を示したものである。

これまでの章でも述べたように、安徽語の母語集団である安徽省の経済状態は調査対象として設定した方言の中でもかなり低い。また、嚴 (2005)

によれば、上海市の流動人口の戸籍登録地別構成を見ると、安徽省は江蘇省に次ぐ高さとなっており、更に、安徽省の出稼ぎ労働者は市部と農村部の結合地域、とりわけ浦東新区の居住が目立ち、市の中心部から離れたところで働く傾向にある。こういった社会的背景から、上海人が安徽省出身の出稼ぎ労働者に接触する機会は比較的多くなり、上海人大学生の安徽語に対するイメージでは、「豪快である」といった男性的なイメージを持つ評価項目が比較的強く現れ、「柔らかである」「上品である」「美しい」といった評価項目の数値は低くなったものと考えられる。

また、表 17 を見れば分かるように、「かっこいい」「豪快である」においては、有意差が見られず、この2項目については普通話と安徽語に共通するイメージであることが分かる。

上海人大学生の安徽語に対するイメージは、「やや豪快に感じるが、上品ではなく、美しく感じない」というものであり、山東語に対するものと類似している。山東語と比較すると、そのイメージは「豪快である」という項目においてプラスの数値を示し、「細やかである」「柔らかである」「上品である」「親近感を覚える」「好きである」「美しい」という6項目においてマイナスの

図 17 普通話と安徽語の比較

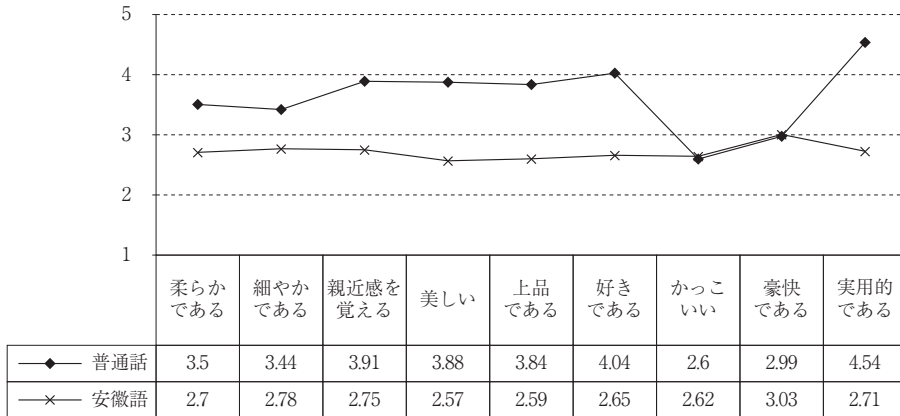


表 17 普通話と安徽語の比較（一元配置分散分析）

| | 柔らか である | 細やか である | 親近感を 覚える | 美しい | 上品 である | 好き である | かっこ いい | 豪快 である | 実用的 である |
|-----|------------|------------|-------------|------------|------------|-----------|-----------|-----------|------------|
| F 値 | 64.97 *** | 45.47 *** | 147.59 *** | 203.03 *** | 209.07 *** | 231.2 *** | .062 | .172 | 515.44 *** |

*p<.05, **p<.01, ***p.001

数値を示しているという点では共通している。だが、「実用的である」「かっこいい」の2項目については両者間の評価がことなっている。

4.2.18 四川語のイメージ

上海人大学生の四川語に対するステレオタイプの評価は、図 18 のようになる。また、表 18 は普通話及び四川語に対する評価の基礎データについて一元配置分散分析を行った結果とその有意確率を示したものである。

四川語の母語集団である四川省の経済状態は調査対象として設定した方言の中でもかなり低い。巖（2005）によれば、上海市の流動人口の戸籍登録地別構成を見ると、四川省出身者は4位となっており、更に、四川省の出稼ぎ労働者は、先に示した安徽省出身の出稼ぎ労働者と同じく、市部と農村部の結合地域、とりわけ宝山区の居住が目立ち、市の中心部から離れたところで働く傾向にあるという。

しかし、四川語に対する評価と安徽語に対する評価は、安徽語が「豪快である」においてのみプラスの評価数値を示しているのに対して、四川語は「豪快である」「親近感を覚える」「好きである」「美しい」の4項目においてプラスの評価数

値を示していることである。共に経済的後進地域である両都市の方言イメージに生じたこの差はどのように構築されたものなのだろうか。今後の課題としたい。

図 18 から読み取れる上海人大学生の四川語に対するイメージは、「豪快で、やや親近感を覚えるが、かっこよさや上品さは感じない」というものである。

4.3 まとめ

(1) 上海人大学生は、母方言である上海語に対して非常に高い評価を下しているが、普通話に対しても同等の高い評価を下している。また、呉語に属する方言に対するステレオタイプのイメージは、共通して、「柔らかく、細やかで親近感を覚えるが、豪快ではなく、かっこよくもない」というものだろう。山東語に対するステレオタイプのイメージは、「豪快であるが、細やかではなく柔らかくも感じない」というものである。揚州語は江淮官話に属する方言ではあるが、蘇州語や杭州語をはじめとする呉語に属する方言と同様の評価傾向を示している。

(2) 因子分析によって各評価項目間には「静的因子」と「動的因子」という2つの共通因子が存

図 18 普通話と四川語の比較

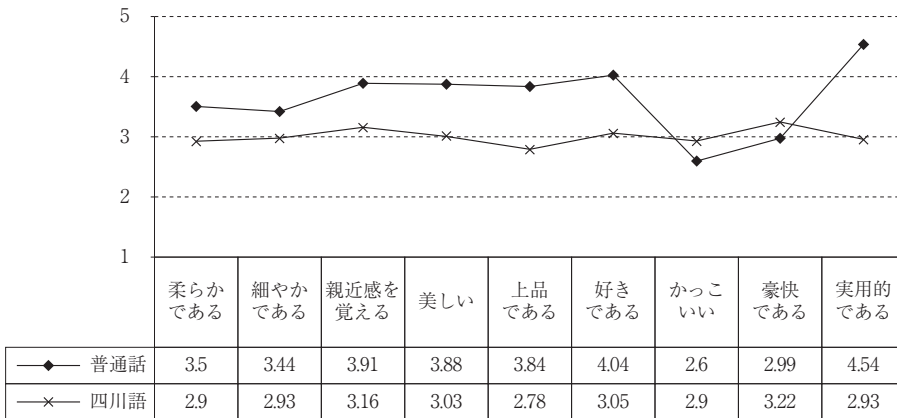


表 18 普通話と四川語の比較（一元配置分散分析）

| | 柔らか である | 細やか である | 親近感 を覚 える | 美しい | 上品 である | 好き である | かっこ いい | 豪快 である | 実用的 である |
|-----|------------|------------|-----------------|-----------|------------|------------|-----------|-----------|------------|
| F 値 | 34.37 *** | 26.75 *** | 58.45 *** | 74.45 *** | 148.72 *** | 110.30 *** | 7.87 ** | 5.47 * | 347.88 *** |

*p<.05, **p<.01, ***p.001

在することが明らかになった。

注

- 1) 堀井 1988 : p.5
- 2) 多変量解析法の中で最も古い歴史を持つ手法で、観測された変数（例えば質問項目）がどのような潜在的な因子（要因）から影響を受けているかを探る手法である。
- 3) 因子分析における最も重要な解法の一つで、共通因子の全変動を順次の直交因子によって最大限説明しようとする方法である。
- 4) 因子の解釈を容易にするために行う直交回転の一つで、共通性で修正した因子負荷量の 2 乗の分散の和という「バリマックス基準」を最大にする回転を求める。
- 5) 複数の集団について、集団間に差異が有るのかどうかを調べる方法のこと。
- 6) 楊 2006 : p.309
- 7) 「正由于温州话在语音，语法等各方面都有与众不同的特点，温州话才成为一种特别难懂的方言。」（沈&沈 2004 : p.8）

参考文献

相澤正夫 (1990). 北海道における共通語使用意識—富良野・札幌言語調査から—研究報告集, 11, 95-130.
 蔡富有・郭龍生 (2001). 語言文字学常用辞典 北京教

育出版社
 陳松岑 (1999). 新加坡華人的語言態度及其對語言能力和語言使用的影響 語言教学与研究, 1, 81-95.
 大東文化大学中国語大辞典編纂室編 (1994). 中国語大辞典 角川書店
 高一虹・蘇新春・周雷 (1998). 回帰前香港, 北京, 広州大学生的語言態度 外語教学与研究, 2, 434-448.
 堀井令以知 1988 「語感・言語意識・言語感覚」『日本語学』(7), 8, 4-10.
 井上史雄 (1978a). 方言イメージの多変量解析 (上) 言語生活, 311, 82-91.
 井上史雄 1978 (b) 方言イメージの多変量解析 (下) 言語生活, 312, 82-88.
 井上史雄 (1980a). 方言のイメージ 言語生活, 341, 48-56.
 井上史雄 (1980b). 方言イメージの評価語 東京外国語大学論集, 30, 85-97.
 井上史雄 (1983). 方言イメージ多変量解析による方言区画 平山輝男博士古稀記念会(編)現代方言学の課題 第一巻 明治書院 pp. 71-98.
 井上史雄 (2007). 変わる方言, 動く日本語 筑摩書房
 神鳥武彦・高永茂 (1988). 方言に対する好悪の意識—「広島方言に対する場合」—国文学攷, 120, 1-18.
 神鳥武彦・高永茂 (1990). 方言に対する好悪の意識—東広島市高屋町における自然発生的集落居住者の場合—国文学攷, 125, 13-27.
 金由那 (2006). 韓国語学習者の日本人と在日韓国人との意識の相違—韓国語・韓国・韓国人イメージと学習要因に着目して—社会言語科学 8(2), 26-42.
 宮本大輔 (2007). 中国における言語評価—浙江省の大学生を例として— 神奈川大学 21COE プログラム年

- 報『人類文化研究のための非文字資料の体系化』, 4, 193-202.
- 宮本大輔 (2008a). 北京における言語評価 神奈川大学 21世紀COE『若手研究者研究成果論文集』pp. 137-151.
- 宮本大輔 (2008b). 日本人学生の言語評価—神奈川大学で行った予備調査に基づいて—神奈川大学大学院外国語学研究科『言語と文化論集』, 14, 51-74.
- 宮本大輔 (2008c). 中国人の言語意識と言語評価の研究—北京・天津・上海・杭州の大学生を例として—, 博士論文, 神奈川大学外国語学研究科.
- 宮本大輔 (2008d). 中国人の言語使用意識—北京・天津・上海・杭州の大学生を例として—, 日本中国語学会第58回全国大会予稿集, 287-291
- 宮本大輔 (2009). 天津人学生の言語評価「人文研究」No.167 掲載予定
- 沖裕子 (1986). 方言イメージの形成 関西大学「国文学」, 63, 1-15.
- 大谷泰照 (1996). 日本人の言語文化意識 言語文化研究, 22, 1-25.
- Osgood, C.E. & May, W.H. & Miron, M.S. 1975 Cross-cultural universals of affective meaning. Univ. of Illinois Press, Urbana, USA
- 真田信治 (2006). 社会言語学の展望 くろしお出版
- 佐藤和之・米田正人 (1999). どうなる日本のことば—方言と共通語のゆくえ—大修館書店
- 鈴木敏昭 (1991). イメージの中の方言と標準語—大阪府豊中市での調査から—富山大学人文学部紀要, 17, 105-125.
- 沈克成・沈迦 (2004). 温州話文化研究 寧波出版社
- 楊東平 (2006). 城市季風—北京和上海的文化精神 (修訂本) 新星出版
- 顔之推撰 (6世紀). 顔氏家訓 欽定四庫全書
- 易中天 (2006). 讀城記 (修訂本) 上海文芸出版社
- 吉村雅仁 (2003). 国際理解教育における英語教育の役割—言語イメージ調査からの示唆—国際理解教育, 9, 42-61.
- 于長江 2004「方言的興替」『中国新聞週刊』2004年8月16日
- 詹伯慧 (1983). 現代漢語方言 (樋口靖訳) 光生館